様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２９ 日現在

機関番号：９５４０１
研究種目：基盤研究(A)（海外学術調査）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｈ０１６５７

研究課題名（和文）グローバル都市の底辺層の構造と変容

研究課題名（英文）Structure and Transformation of Bottom People in Global Cities

研究代表者
青木　秀男（Aoki, Hideo）

特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・研究部・研究員

研究者番号：５００７９２６６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　32,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、世界のグローバル都市（ニューヨーク、パリ、東京、ナイロビ、メキシコシティ、マニラ）の底辺層の実態調査を行った。コロナ禍のため、ズームでの聞き取りが主となった。それでも成果は得られた。まず本研究は、グローバルな都市階層の変動を分析する新概念・都市底辺の有効性を確認した。それは、労働・居住・生活世界、またGlobal North・Southの都市底辺を包摂する概念である。次に、都市底辺を軸に分析枠組を構成し、6都市の底辺層の多様な形（スラム、ホームレス、難民、ベンダー、性労働者）を分析した。そして底辺層の特徴と都市間の共通・差異を分析し、類型を構成し、世界の都市底辺の全体像を描写した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は、次の通りである。一つ、G. AgambenのHomo Sacer論とA. Royのcritical informality論を合体し、都市研究の理論を更新した。二つ、先行の類似概念を精査し、グローバルな都市階層の変動を捉える新概念・都市底辺を提起した。三つ、世界の大陸・島嶼の6つのグローバル都市を選定し、都市底辺を鍵概念とし、苦境に生きる人々の多様な様態を分析した。四つ、都市底辺の類型を抽出し、世界の都市底辺の全体像を描写した。五つ、都市底辺の研究は、現代都市の変容を全体的・動態的に捉える手掛りとなった。・・・こうして本研究は、都市研究を挑戦的に更新するものとなった。

研究成果の概要（英文）：This research surveyed the bottom people in global cities (New York, Paris, Tokyo, Nairobi, Mexico City, and Manila). Due to the coronavirus crisis, interviews were mainly conducted via Zoom. Still, it worked. First, this research proposed a new concept, urban bottom, to analyze changes in the global urban class. It is a concept that encompasses work, residence, and life world, as well as the bottom people of the Global North and South. Next, we constructed an analytical framework centered on the urban bottom and analyzed the various aspects of the urban bottom in six cities (slums, homelessness, refugees, vendors, and street sex workers). Then, we analyzed the characteristics of the urban bottom, compared the commonalities and differences between cities, extracted the types of the urban bottom, and described the overall picture of the urban bottom of the world.

研究分野：社会学

キーワード：グローバル都市　都市底辺　インフォーマリティ　ジェントリフィケーション　貧困　ネットワーク　生活世界　生き抜き戦略

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ネオリベ・グローバリゼーションの中、都市の産業構造が変容し、労働市場が変容し、居住空間が変容している。そして、広汎な人々の階層的再編が進んでいる。底辺の人々は、ますます厳しい生活困窮の中にある。このような都市変容についての研究は、すでに多い。底辺の人々は、どのように移動し、都市へ流れ、どのような生活の苦難の中にあるのか。仕事と住いは、どのように選別され、排除されているのか。このような底辺世界についての研究も多い。しかし研究は、これらの問いにどこまで答えているだろうか。本研究の初発の動機は、これらの問いへの挑戦に始まる。アーバン・プア、アンダークラス、ワーキング・プア、プレカリアート等の先行研究を渉猟し、検討し、それらの不十分さを補い、激変する現代都市の底辺世界を的確に捉えるために、底辺世界へ入り込み、他方で理論と枠組を洗練し、もって底辺世界の現実分析を行う。これが、本研究を促した背景と動機であった。

２．研究の目的

都市の底辺世界の実態を明らかにし、変容の行方を見定める。その導きとなるべき理論と分析枠組みを、先行研究を参照しつつ、構築する。本研究の目的はここにあった。そのために本研究は、都市の底辺世界の人々を包括して捉える新たな概念・都市底辺を提示した。ここで都市底辺とは、次の人々からなる。一つ、都市底辺は、資本主義のネオリベ・グローバル化により労働のインフォーマル化の影響を蒙った人々を包括し、既存の労働階層を縦断する一つの緩やかな社会階層をなし、さらにその内部で再階層化された人々である。そこには、正規雇用者の下層部分から非正規雇用者、派遣・契約労働者、零細な自営的雑業層、失業・無職者、ホームレスまで含まれる。都市底辺は、既存の諸概念、ルンペン・プロレタリアートやアーバン・プア、アンダークラス、ワーキング・プア、プレカリアートと一部重なり、一部異なり、それらの概念より広く、都市にあって労働のインフォーマル化の影響を被った人々の全体を指す。それは、資本主義のネオリベ・グローバル化のもと変容する労働者階級の今日的な態様を捉える概念でもある。二つ、都市底辺は、労働階層であるだけではなく、居住階層でもある。居住階層でいえば、低価格住宅、スラム、スクオッター、路上に居住する人々が、都市底辺層に当たる。ただしここで、低位な労働階層は、つねに低位な居住階層を意味するものではない。例えば不法居住とされるスクオッターには、しばしばミドルクラスの人々も居住する。居住には労働と収入に還元されない固有の事情（住宅供給の不足等）がある。三つ、都市底辺層は、Global NorthとSouthの都市底辺の人々を包括する地球横断的な概念である。Northの都市では、多くの人々が、労働のインフォーマル化により階層を下降し、生活困窮に陥った。その労働階層・居住空間へ、Southから移民・難民が加わった。他方で、Southの都市では、もともと膨大な底辺労働者と生活困窮者がいたが、労働のインフォーマル化により、その階層が膨張した。Southのどの都市でも、政府の都市空間の再編によりスクオッターの数は減少した。しかし、その居住人口は増加している。しかも貧困は、大都市から地方都市へ拡大しつつある。本研究は、都市底辺を鍵概念として、変容する都市の底辺世界の移動・労働・居住・意味世界の実態を分析し、人々が「どこから来て、どこへ行くのか」を確定し、予測した。

３．研究の方法

本研究は、グローバル都市の底辺層の多様な人々を対象に、面接による実態調査を行った。世界の都市底辺の全体像へ接近するため、世界の大陸部・島嶼部から６つのグローバル都市を選定した。それは、ニューヨーク、パリ、東京、メキシコシティ、ナイロビ、マニラである。実態調査では、次のような体制を取った。研究代表者・青木秀男（社会理論・動態研究所）と分担者・石岡丈昇（日本大学）は、調査全体の統括班を務めた。ニューヨークの調査は分担者・中村寛（多摩美術大学）が行った。これに現地協力者として、ニューヨークの底辺世界の研究者である The New School For Social Research の Terry Williams 教授が加わった。そしてハーレム等のエスニック・マイノリティや種々の底辺労働者を対象に面接調査を行った。パリの調査は、分担者・森千香子（同志社大学）が行った。これに現地協力者として、The French National Centre for Scientific Research の Hélène LE BAIL 主任研究員が加わった。そしてスラム・ホームレス、難民、セックス・ワーカーを対象に面接調査を行った。東京の調査は、分担者の田巻松雄（宇都宮大学）・山口恵子（東京学芸大学）・北川由紀彦（放送大学）、結城翼（社会理論・動態研究所）が、外国人、女性労働者、ホームレス、生活保護受給者を対象に面接調査を行った。ナイロビの調査は、分担者・松田素二（総合地球環境学研究所）が行った。これに現地協力者として、ケープタウン大学の African Centre for Cities の Wangui Kimari 研究員が加わった。そして２つのスラムで面接調査を行った。メキシコシティの調査は、分担者・中田英樹（社会理論・動態研究所）が行った。これにメキシコ人協力者として、社会理論・動態研究所の Heriberto Ruiz Tafoya

研究員が加わった。そしてスラムの若者の生活史調査を行い、またメキシコシティの労働・居住・階層の統計分析を行った。マニラの調査は、分担者の小ヶ谷千穂（フェリス女学院大学）と吉田舞（北九州市立大学）が行った。これに現地協力者として、アテネオ・デ・マニラ大学の Maria Karaos 教授が加わった。そしてスラム、ストリート・ベンダー、ホームレスを対象に面接調査を行った。・・・さらにこれらの面接調査と合わせて、6 都市で統一した質問項目によるアンケート調査を行った（各都市 50 サンプル）。アンケート調査は、面接調査への導入の役割も果たした。最後に、統括班の青木と石岡は、6 都市での面接調査とアンケート調査によるデータを整理し、分析し、それを基に都市底辺の国際比較に向けた枠組みの構築と理論的洗練を行った。

４．研究成果

本研究は、2020 年に世界的なコロナの蔓延があり、６都市での実態調査ができず、ズームによる調査が主となった。そのため調査は、当初の予定（2017 年～2020 年）を超えて 2022 年度まで延期された。しかし 2017～19 年度及び 2022 年度には実態調査が可能であったため、面接調査、アンケート調査とも完了することができた。また実態調査の成果に踏まえ、理論的考察を進めるための国際会議を行った。2019 年 10 月と 12 月、2021 年 10 月と 12 月、2022 年 9 月に東京にて、2022 年 10 月に広島県福山にて、アメリカ、ケニヤ、カナダ、フィリピンから研究者を招いて国際シンポジウムを行った。社会理論・動態研究所所員でメキシコシティ出身の H・R・Tafoya との研究会を重ねた。さらにフィリピン、フランス、アメリカ、日本の研究者をズームで招き、国際フォーラムを行った。その他、研究代表者・分担者の研究会、また国際シンポジウム・フォーラムへ出かけての研究報告、さらに種々学会・研究会での研究報告を行った。6 都市の実態調査が完了し、これらの研究活動により、本研究の当初の目的は達成された。本研究の中身の成果は、次の 2 点に要約される。

一つ、都市底辺を鍵概念とする底辺世界の分析の有効性が確認された。すなわち、まず、ネオリベ・グローバル化の中、国内・国境を超えて移動し、労働・居住・ネットワークが変容し、階層的な下降圧力を蒙った都市底辺の苦難の生活実態が明らかになった。次に、都市底辺が、Global North と South において地球横断的に生活の苦難を強いられている実態が明らかになった。都市底辺は、各国・各都市の固有の生態学的・社会経済的・文化的な条件のもと、多様な人々から構成されるが、その上で、世界の都市底辺は、ネオリベ・グローバル化を進める資本と、それに沿った国家（行政）の施策により、全般的な階層の下降圧力を受け、生活困窮を深めつつある。6 都市の底辺層の分析と比較により、その実態が明らかになった。

二つ、新概念・都市底辺は、現代の都市理論であるアーバン・インフォーマリティ論と深く関わっている。インフォーマリティ論は、かつての過剰都市化論から始まり、フォーマリティ／インフォーマリティの二項対照論とその訂正を経て、インフォーマリティ形成における国家行政の役割に着目し、フォーマリティ／インフォーマリティが政治的に構築されたものであると説く批判的インフォーマリティ論（Ananya Roy）へ進展してきた。さらに今日、都市底辺を超えて都市全体を批判的インフォーマリティ論の視座で捉え、インフォーマリティとは権力の例外状態が生んだホモ・サケル空間であると解釈するホモ・サケル論（Giorgio Agamben）と合体させる理論が現れている。・・・都市底辺論は、このようなインフォーマリティ論やホモ・サケル論を援用し、新たな都市理論として展開することができる。このように本研究は、都市底辺の研究を展開し、さらにインフォーマリティ論、ホモ・サケル論とへ接続する理論的展望を切り拓いた。

これらの本研究の成果は、2024 年に大手出版社の Brill 社から英語本として刊行される予定である（*Structure and Transformation of Urban Bottom in Six Global Cities: Comparative Study of New York, Paris, Tokyo, Manila, Nairobi and Mexico City*）（出版契約はすんでいる）。本研究の代表者・分担者は、都市底辺の実態分析・その理論展開から得た知見が、世界の都市研究に確かなインパクトを与えるものであると信じている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 Aoki Hideo	４．巻 47-1
２．論文標題 Commentary: Toward a Critical Understanding of the Japanese State and Capitalism	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Critical Sociology	６．最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0896920520938835	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Aoki Hideo	４．巻 47-1
２．論文標題 Marxism and the Debate on the Transition to Capitalism in Prewar Japan	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Critical Sociology	６．最初と最後の頁 17-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0896920520914074	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Aoki Hideo	４．巻 4
２．論文標題 Urban Space of Exception and Urban Homo Sacer: Toward Embodying Critical Informality Theory	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Social Theory and Dynamics (Institute of Social Theory and Dynamics)	６．最初と最後の頁 3-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.51113/04/03	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 森千香子	４．巻 2022-2
２．論文標題 植民地主義と不動産デベロッパートランスナショナル・ジェントリフィケーション研究を手がかりに	５．発行年 2022年
３．雑誌名 福音と世界（新教出版社）	６．最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 森千賀子	4．巻 760
2．論文標題 「多様なケア階級の反乱」に向けた一考察―ニューヨーク移住家事労働者の運動を手がかりに	5．発行年 2022年
3．雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6．最初と最後の頁 43-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ogaya Chiho	4．巻 57
2．論文標題 Women’s Lived Experiences of COVID-19 in an Urban Bottom Settlement in Metro Manila	5．発行年 2022年
3．雑誌名 フェリス女学院大学文学部紀要	6．最初と最後の頁 49-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 吉田舞	4．巻 38
2．論文標題 労働のインフォーマリティ再考―マニラのストリート・ベンダーを事例として	5．発行年 2020年
3．雑誌名 都市社会学年報	6．最初と最後の頁 19-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5637/jpasurban.2020.65	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 吉田舞	4．巻 50-3/4
2．論文標題 パンデミックショックと社会的断絶―マニラのストリート・ベンダーの事例から	5．発行年 2023年
3．雑誌名 法政論集（北九州市立大学）	6．最初と最後の頁 81-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　2件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 松田素二
２．発表標題 アフリカから学ぶ人文学－アフリカからまなぶもう一つの社会観、歴史観、人間観
３．学会等名 京都大学オンライン公開講義「立ち止まって、考える」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 松田素二
２．発表標題 What is the COVID-19 Pandemic to the Villagers of Western Kenya?
３．学会等名 現代のグローバル社会の課題に関する学際的国際シンポジウム（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中田英樹
２．発表標題 パラグアイへと移住した日本人に関する一考察－ラテンアメリカの日系移民と「日本人」
３．学会等名 日本村落研究学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 山口恵子、田巻松雄
２．発表標題 東京における都市貧困層の動態（１）―労働過程と貧困化
３．学会等名 日本社会学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 北川由紀彦
２．発表標題 東京における都市貧困層の動態（２）―福祉制度の利用は貧困層に何をもたらすか
３．学会等名 日本社会学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 結城翼
２．発表標題 東京における都市貧困層の動態（３）―ジェンダー化された（イ ン）モビリティの経験
３．学会等名 日本社会学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 結城翼
２．発表標題 インモビリティと不定住的貧困
３．学会等名 日本都市社会学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 吉田舞
２．発表標題 ストリートから見るコロナ禍ーマニラの露天商調査より
３．学会等名 関東社会学会第1回研究例会
４．発表年 2023年

１．発表者名 吉田舞
２．発表標題 パンデミックショックと社会的断絶―マニラのストリート・ベンダーの事例から
３．学会等名 Global South研究会（社会理論・動態研究所）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計4件

１．著者名 Matsuda Motoji (Matsuda, 287-304)	４．発行年 2022年
２．出版社 Langaa RPCIG	５．総ページ数 332
３．書名 African Potentials: Bricolage, Incompleteness and Lifeness	

１．著者名 田巻松雄	４．発行年 2021年
２．出版社 宇都宮大学	５．総ページ数 86
３．書名 （報告書）公立・自主夜間中学の社会的意義と課題を考える	

１．著者名 田巻松雄	４．発行年 2021年
２．出版社 宇都宮大学	５．総ページ数 155
３．書名 （報告書）宇都宮大学 HANDS10年史―外国人児童生徒支援の実践	

１．著者名 田巻松雄	４．発行年 2022年
２．出版社 宇都宮大学	５．総ページ数 100
３．書名 （報告書）夜間中学と定時制高校ー現状を知り、多様な学びの場の可能性を考えよう	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小ヶ谷　千穂 (Ogaya Chiho) (00401688)	フェリス女学院大学・文学部・教授 (32711)	
研究分担者	北川　由紀彦 (Kitagawa Yukihiko) (00601840)	放送大学・教養学部・教授 (32508)	
研究分担者	森　千香子 (Mori Chikako) (10410755)	同志社大学・社会学部・教授 (34310)	
研究分担者	石岡　丈昇 (Ishioka Tomonori) (10515472)	日本大学・文理学部・教授 (32665)	
研究分担者	田巻　松雄 (Tamaki Matsuo) (40179883)	宇都宮大学・国際学部・名誉教授 (12201)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山口　恵子 (Yamaguchi Keiko) (40344585)	東京学芸大学・教育学部・教授 (12604)	
研究分担者	松田　素二 (Matsuda Motoji) (50173852)	総合地球環境学研究所・研究部・特任教授 (64303)	
研究分担者	中村　寛 (Nakamura Hiroshi) (50512737)	多摩美術大学・美術学部・教授 (32640)	
研究分担者	吉田　舞 (Yoshida Mai) (50601902)	北九州市立大学・法学部・准教授 (27101)	
研究分担者	結城　翼 (Yuki Tsubasa) (50840493)	特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・研究部・研究員 (95401)	
研究分担者	中田　英樹 (Nakata Hideki) (70551935)	特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・研究部・研究員 (95401)	
研究分担者	大井　由紀 (Ooi Yuki) (10551070)	南山大学・外国語学部・准教授 (33917)	削除：2018年5月11日

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関